


## Chapter 1 パーシャルデンチャーによる治療を成功に導くための基本事項

- 1 歯の欠損が顎・口腔にどのような影響を及ぼすか理解しよう／6
- 2 欠損による顎・口腔の変化に対応する(欠損を拡大させない)ための設計の基本／8  
－“動かない”“汚さない”“壊れない”の3原則はなぜ重要か－
- 3 大切な前処置 ー治療を成功に導くための最重要項目といっても過言ではないー／11  
 補綴をしないという選択 ー短縮歯列はどんな場合に適応できるかー／14

## Chapter 2 3原則に基づいてパーシャルデンチャーを設計しよう

- 1 まず取り掛かる前に ー患者背景をよく理解して治療計画を立案し合意を得ようー／16
- 2 原則1 “動かない”義歯となるために ー動揺を最小化する設計のポイントー／18
- 3 原則2 口腔内を“汚さない”ために／21  
ー義歯による汚染を防ぐ設計とケアのポイントー
- 4 原則3 “壊れない”義歯となるために ー破損を防ぐ設計のポイントー／24

## Chapter 3 私費のパーシャルデンチャーでは3原則を最大限に活かそう

- 1 私費治療への移行にあたって重要なこと／28
- 2 私費の義歯のクオリティを活かそう／30  
ー金属床義歯、テレスコープ義歯、インプラント義歯、アタッチメント義歯のメリットー

## Chapter 4 難症例にパーシャルデンチャーを活かすために

- 1 「すれ違い咬合」へのパーシャルデンチャーによる対応／34
- 2 「高度咬耗症例」へのパーシャルデンチャーによる対応／37

## 付属 ディスク版電子症例集の見方・活かし方

- 1 電子症例集の掲載内容と特長／40
- 2 電子症例集の利用法／42

## 本書&電子症例集の理解を深める用語解説／44